

あさお希望のシナリオプロジェクトテーマ①「地域のプレーヤーになろう・育てよう」結果概要

- 1 日 時 令和2年2月9日（日） 13時30分～15時45分
- 2 会 場 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 参加者51名、区役所職員（企画課、地域振興課、生涯学習支援課）7名
- 4 あさお希望のシナリオプロジェクトテーマ①説明（パワーポイント使用）

※資料別添のとおり

- ・キックオフミーティング振り返り
 - ・テーマ①取組の方向性について
 - ・テーマ①今後のスケジュール
 - ・取組事例
- 5 ワークショップ
 - ・「多世代交流」or「交流機会の創出」についてプロジェクトテーマ①の「プレーヤーになろう・育てよう」の視点でやりたいこと・できそうなことの意見交換

【グループごとの主な意見】

1 G 【多世代交流】

- 子供たちが「溜まる場所」
 - ・地元の人たちとの接点が少ない・地域のつながりがない・地域に興味のない子供たち⇒10年後が心配・問題⇒興味を持たせる・まきこむ・多世代との関わり
 - 様々なコミュニティがフラットで無理なく同じ場所に集えると良い
 - ・様々なコミュニティについて相互補完できていない・興味がない、温度差がある、敷居が高い⇒問題⇒興味を持たせる・まきこむ

2 G 【多世代交流】

- 知ること
 - ・イベントの前座とかその周りに多様なイベントの情報を提示するスペースを置く。置くだけでなく、その団体を紹介しつなぐ。・市民窓口をつくる・異世代コミュニケーションの場づくり・参加しやすさを考える・地元野菜を知って食べる（体験する）
 - やりたいこと
 - ・参加者それぞれの出来ることをコラボレーション・子どもを通して社会とつながる（情報を知る）・親子で参加できる講座やイベントをたくさん開催する・シニアと子どもが参加できる連続の会・経験豊かなシニアを取り入れ多世代交流サロン・子育て中の人参加できるイベント・麻生の地産地消を利用しての食の集い（芋煮会や鍋を囲む会）・働いている人が参加できる講座、サロン（休日・夜間）・若い人主催イベントにシニアが参加する。（ハロウィンパレードなど）
- ⇒はじめの一歩「30代・40代の扉を開けよう」

3 G 【多世代交流】

- 色々なアイデアを出し、実行する場所の創出。（HUB）例：寺院
- 具体的活動を実現するための事業費、係る手続きの見える化
- 情報を早くキャッチできるスキームづくり（体制）。誰もが知ることができる
- 潜在能力の発掘、シニア層、若年層等からの人材獲得
- 部門（こども食堂、認知症カフェ等）ごとのマップ作製
- 点と点をつなげて「線」となり「まち」となる

4 G 【交流機会の創出】

- 既存のイベントに参加
 - ・マルシェ（1回／月）、クリーンアップイベント（2回／年）等
 - ・様々なチーム、企業さんとのコラボ企画
- これから考えたい企画
 - ・デッキのアート化（イベント・アート）⇒アイデアを
 - ・世代別に働きかけるイベント（例）50代女性のための、カッコイイ60代になるための
- ちょい活、ワークショップ
 - ・「やってみたい」を叶える～チーム、～部
- 見える化
 - ・地域プレーヤーを知れるようなWEBコンテンツ

5 G 【交流機会の創出】

- 音楽・ダンスイベント
 - ・多世代の音楽イベントなど・駅前ピアノを年中やって、ピアノコンクールも開いて、芸術のまちを活性化し、芸術家との交流を広げる
- 地域経済
 - ・スタートアップ起業塾・シニア層の経験（資格）を活かす・寺子屋
- イベント
 - ・区内学校への講演会企画・防災
 - ・既存団体が何なのか知るイベント、町内会との交流イベントへの参加（知る）⇒体験レッスン（体験する）⇒続ける
- クラウドファンディング（区民のみ）

6 G 【交流機会の創出】

- 地域情報発信（見本市、区内の活動、イベント情報）
 - ・区内でどのような活動をしているのか知りたい・参加したら誰かに伝えたくなる
 - ・情報発信のやり方を工夫する
- 地域イベントの企画（地域活動の見本市、親子参加、世代間、定期的）
 - ・参加者が定期的に同じメンバーで顔を合わせる場所・平日の親子参加イベント・世代がつながる居場所・内輪だけで盛り上がり上がらない工夫

○地域メンバーの参画（つながる、メール発信、安心・安全）

- ・アクティビティシニアのセミナー・区民記者の拡大・防災情報の更新からつながり・区内ボランティアメールマガジン配信・ボランティバンク（やりたい人と求める人をつなげる）・寺子屋事業・50代ターゲットの交流会・当日（定期的に）ふらっと手伝いできるボランティア

7 G 【交流機会の創出】

○既存の活動ベース（知る目的）

- ・ゆりパル参加・マルシェの活動に参加・「福祉応援フリマ」の運営・既存団体イベントを知る

○新設（知る目的）

- ・「ごえんいち」（活動見本市）

○集める目的

- ・若者が集まるイベント・地域の名産物を知ったり、買えたりするイベントに参加する・「芸術・文化のまちづくり」→音楽ストリートフェス

○プレーヤーの定期的な飲み会（コア：ちょい活？）

- ・ターゲット別に実施（定年前の50代男性、おじさん合コン、30代子育て中女性、若者が集まるイベントの開催）

⇒・団体交流会・マルシェと福祉応援フリマのコラボ・地域別同窓会（課題共有）

○ちょい活（仕組み）

- ・「ちょい活」募集紙・誌の発行・「学校の単位」になる（大学生向け）・小さい子供をつれてきても良い仕組み・いまはやりのサブスク（定額制で街で遊べる定期券）

8 G 【交流機会の創出】

○ポイント

- ・具体的な活動を→テーマを絞り込んでいく
- ・活動範囲が大事→小さな単位から始めよう→場所は顔の見えるところから⇒そこからつながりをつくっていく
- ・みんなが参加しやすい仕組みを・一人に、リーダーに頼らない
- ・地域に合ったテーマを

○具体例

- ・活動情報をまとめた「活動バンク」をつくる・いまある活動に参加していく
- ・街をきれいにする活動をつくる（やりやすい）・花いっぱい運動・集まりやすい単位として三十軒組をつくる
- ・三十軒組で「ミニ講演会」をやる（みんなの顔が見えるようになる）・この指とまれ！運動を

6 その他

WSの意見を踏まえ、次回チーム分けを行い、チーム毎に具体的な取組の検討を行う予定